

麻しん・風しんワクチンの接種を希望される方へ

～定期接種対象年齢以外の方（任意接種）用

釧路赤十字病院

麻しん・風しんは過去においては一般的に流行があり、かかっている方が多い感染症でした。しかし重症な合併症を発症する可能性がある事、また風しんにおいては、妊娠20週頃までの女性が感染するとお腹の赤ちゃんにも感染して、先天性風しん症候群の赤ちゃんが生まれる場合があるため、現在は子供の頃にワクチンをうけて予防することが強く推奨されています。

近年、免疫が少ない人、また子供の頃にワクチンをうけていない人や回数が少ない人を（現在は2回接種ですが、過去には1回のみ接種だった時期があります。）中心に国内で流行が発生し問題となっています。そこで、免疫が少ない、ワクチンをうけたことがない（もしくは1回しかうけていない）方は、妊婦さんを守る、重い合併症を防ぐと言った意味で、男性も女性もワクチンをうけておくことが強く進められています。

ワクチンに関しては、母子手帳による確認が正確ですが、手元にない方等もいらっしゃいます。そこで当院では以下の内容を確認の上、ワクチンをうけるかをご本人に決めて頂いております。

※なお現在国内では麻しん、風しんの単体ワクチンは手に入らないため、当院では麻しん・風しん混合ワクチンとなります。

※他ワクチンを同時にうけることも医師が特に必要とみとめた場合は可能とされていますが、当院は現在成人では実施しておりません。

【ワクチンをうけるかどうかの選択方法】

1. 母子手帳を手元にお持ちの方

1) 麻しん・風しんのワクチンを2回うけた記録が残っている

→ワクチンをうける必要はありません

（なお、ワクチンを2回うけても免疫ができない方や低下してしまう方もいます。ご心配な方は抗体の値を測定することもできます。

※1種類の抗体を調べるには4,020円（税別）の自己負担が発生します。）

2) 麻しん・風しんのワクチンを1回うけた記録が残っている

→ワクチンを1回うけることをお勧めします

2. 母子手帳を手元にお持ちでない方

1) 抗体の値を測定する

(※1種類の抗体を調べるには4,020円(税別)の自己負担が発生します。

結果がでるまでには1週間程度時間がかかるため、受診が複数回必要です。)

→①低い値であれば、ワクチンをうける

②高い値であれば、ワクチンをうける必要はありません

2) 抗体の値を測定しないでワクチンを2回うける

(※抗体の値を測定するには、自己負担が発生し、また結果が出るまで時間がかかります。渡航予定等にてお急ぎの方は抗体の値を測定しないでワクチンをうけることも可能です。日本ワクチン産業協会から出版されている予防接種に関するQ&Aには「抗体が陽性の成人にワクチンを接種しても特に問題がない」ことが明記されています)

抗体の値を確認して決定することが推奨されますが、必要性が高い場合はその限りではないとされています。しかし、ワクチンによる副反応は少ないとされていますが、全くない訳ではありません。下記の内容を理解した上でご判断下さい。

【ワクチンをうける際の留意事項】

1. ワクチンをうけることができない人

1) 妊娠をしている女性および妊娠している可能性がある女性は麻しん・風しんワクチンをうけることができません。麻しん・風しんワクチン接種後は少なくとも 2 カ月の避妊が必要です。万が一、ワクチンを接種した後に妊娠がわかった場合は、かかりつけの産婦人科の先生にご相談ください。なお、これまで世界的に見てもワクチンによる先天性風しん症候群（CRS）の患者さんの報告はありませんが、接種前の注意が必要です。

2) ワクチンをうける 3 カ月以内にガンマグロブリン（血液製剤の一種で、重症の感染症の治療などに使われます）の注射あるいは輸血をうけたことがある人は、免疫が十分にできませんのでワクチンをうけることを延期する必要があります。また、大量のガンマグロブリンの注射をうけたことがある人は、6 カ月程度延期する必要があります。

3) 生ワクチン（麻しん風しん混合、麻しん、風しん、BCG、水ぼうそう、おたふくかぜ、黄熱ワクチンなど）の後は中 27 日以上、不活化ワクチン（ヒブ、小児用肺炎球菌、インフルエンザ、四種混合（百日咳・ジフテリア・破傷風・不活化ポリオ）、三種混合（百日咳、ジフテリア、破傷風）、二種混合（ジフテリア、破傷風）、不活化ポリオ、日本脳炎、A 型肝炎、B 型肝炎、狂犬病、成人用肺炎球菌ワクチンなど）の後は中 6 日以上、間隔をあける必要があります。

麻しん・風しんワクチンに限ったものではありませんが、

4) 接種直前の体温が 37.5℃以上であった人

5) 重い急性の病気にかかっている人

6) 麻しん・風しんワクチンに含まれる成分（接種医におたずねください）でアナフィラキシーという重いアレルギー反応を起こしたことがある人

7) 接種医がうけない方が良くないと判断した場合には、ワクチンをうけることができません。

2. ワクチンをうけるときに注意が必要な人（ワクチンをうけるには、かかりつけの先生と相談する必要があります）

1) 先天性異常、心臓、腎臓、肝臓、血液、脳神経、発育発達の病気、悪性腫瘍など何らかの病気がある人

2) これまでの予防接種で 2 日以内に発熱がみられた人、またはアレルギーを疑う症状（全身の発疹やじんましんなど）がみられた人

3) これまでにけいれんを起こしたことがある人

4) これまでに免疫機能に異常（感染症によくかかったり、感染症が重くなったりすることがあります）があると言われたことがある人

- 5) 麻しん・風しんワクチンに含まれる成分（接種医におたずねください）でアレルギーを起こすおそれのある人
- 6) 薬や食べ物でアレルギーを疑う症状（全身の発疹やじんましんなど）がみられた人
- 7) 接種当日の体調が普段とちがう人
- 8) 家族や周りで最近1ヵ月以内に麻しん、風しん、水ぼうそう、おたふくかぜにかかった人がいる場合
- 9) 最近1ヵ月以内に何か病気にかかったことがある人

3. 麻しん・風しんワクチンの効果

麻しん・風しんワクチンを1回うけることによって95%以上、2回うけることで99%以上の人が免疫（めんえき）を獲得しますので、ワクチンをうけてからであれば、患者さんと接触してもほとんどの場合、発症を予防することができます。しかし、いつまで免疫が持続するかについては、獲得した免疫の状況や、その後の周りでの流行の程度によって異なります。2006年度から2回接種制度が導入され、平成2年4月2日以降に生まれた人は2回の接種を受ける機会がありましたが、それより年齢が上の人は受けていても1回で、昭和54年4月1日以前に生まれた男性は1回もワクチンをうける機会がありませんでした。女性は妊娠前に2回のワクチンをうけておくことが奨められます。妊娠前にパートナーの男性と二人でうけておくことをお奨めします。

4. 麻しん・風しんを含むワクチンの副反応

副反応は非常に少ないワクチンといつてよいでしょう。ただし、麻しん風しん混合ワクチンを初めてうける場合は、子どもでも大人でもうけた後7~10日ごろに熱が出る場合があります。また同じころに発疹が出る場合がありますが、通常数日で治ります。2回目以降の場合は、発熱や発疹がみられることは稀です。

麻しん・風しんをワクチンに限ったことではなく、ワクチン全般で言われることですが、稀にうけた後30分以内にアナフィラキシーという重いアレルギー反応や、血管迷走神経反射による顔色不良、気分不良、血圧低下や失神を認める方がいますので、うけた後は少なくとも30分間、ワクチンをうけた医療機関などで背もたれのある椅子に座って様子を観察しましょう。

子どもを対象にしたこれまでの調査では、ワクチンをうけた後5~14日に発熱（37.5℃以上38.4℃未満が1.9%、38.5℃以上が2.6%、発疹（1.3%）、リンパ節のはれ（0.6%）が報告されています。しかし、通常数日の経過で自然によくなります。成人女性がワクチンをうけた場合、子どもにくらべると関節炎の発症頻度が高いと言われてはいますが、この場合も数日から1週間程度で自然に治ります。また、ワクチンをうけた後に稀（100万人に1人程度）ではありますが、血小板減少性紫斑病や脳炎が認められる場合があります。ただし、自然に風しんにかかった場合には血小板減少性紫斑病は3,000人~5,000人に1

人、脳炎は4,000人～6,000人に1人の割合で見られますので、発症頻度はワクチンをうけた方が自然感染に比べるとはるかに低い割合です。ワクチンをうけた後2～3週間は副反応の出現に注意しましょう。

5. その他注意すること

※ワクチンをうけた人の咽頭（のど）から、接種1～2週間後にワクチンウイルスがでてくることがありますが、周りの人にうつることはありませんので、妊婦さんの家族の方がワクチンをうけられても心配はありません。むしろ、妊婦さんの家族で風しんの免疫をもっていない方は、2012年からの流行を考えると、早めにうけておかれた方が良いでしょう。

※予診票はこれまでの様子を知るための重要な情報ですので、正しく記入しましょう。

※ワクチンをうけた当日は入浴可能ですが、接種部位を清潔に保ち、はげしい運動をひかえ、体調をよく観察しましょう。もし、何か気になる症状がみられた場合は接種医に相談しましょう。

平成30年6月作成